

まち歩きによる経験を身体的空間図式として記述する研究 (国分寺崖線における「はけ道」を対象地として)

日大生産工(院) ○津曲 陸 日大生産工(院) 篠崎 健一

1. はじめに

建築やまちを経験する際、私たちは空間や身体における環境の状況があるがままに知覚するのではなく、認識を方向づける図式によって知覚する¹⁾。このような知覚を方向づける図式を空間図式^{*1}と呼ぶことにする。

本研究の目的は、まち歩きでの経験を図式化して空間体験の特徴を明らかにすると同時に、自らの体験を元に、まちを観る方法を語り伝えることである。まち歩きの体験は暗黙知³⁾であるが、この研究では、その知を一人称視点^{*2}から記述する。一人称だからこそ見出せる知の姿もあるはずである。また、まちを観る方法の伝達は、たくさんの個から普遍的な知をうむことに繋がると考えている。

2. 既往研究との関係

福田・藤井(2015)は、心地よいと感じるシークエンスの空間体験の特徴を図式化することを目的とし、回遊式庭園を対象に、映像とナラティブによって記録し、主体と物的環境の位置関係に着目して心地よいと感じる空間図式の抽出を試みている⁵⁾。なお図式表現は、複雑な体験での空間図式の変化を複数の図式で連続的に表現している。本研究は、まち歩きというシークエンスの空間体験の図式化という点では共通であるが、ひとつの体験で空間図式の変化する前後と変化するきっかけまでを捉えるという点で福田・藤井と異なる。

3. 研究方法

まち歩きを通じて、まちを丹念に探索してまわり、空間体験から写真や文章を用いながら空間図式を得ていく。空間図式の探究は、空間の経験(3.1)、経験の表現(3.2)、空間図式作成(3.3)経験の構造化(3.4)からなる。

さらに、得た知見が他者のまち歩きの一助となりうるのかも言及する。まち歩きを他者へ仕掛ける研究として「まち観帖」^{*3}(諏訪・加藤, 2012)がある⁶⁾。筆者もまち観帖を携えてまち歩きを実施し、まちを観る身体を養っているが、最終的に、このまち観帖なるものの作成と実際に使用した検証も行う。

3.1 空間の経験

実際にまち歩きを行うフィールドは、国分寺崖線である。(Fig.1) 国分寺崖線は、立川市から国分寺市などを経由し、世田谷区から大田区へと延長約30kmにわたって続く地形であり、武蔵野台地を多摩川が侵食してできた河岸段丘である。武蔵野の地域では、この崖線は「はけ」と呼ばれ、はけ沿いには湧水や緑地、田畑、遺跡なども残る。また、はけ沿いの道(はけ道)は、地域の生活に根ざした道である。はけ道の定義はないが、「はけ」や「はけ道」といった明瞭さを欠きつつも地域性が感じられる呼称も魅力的である⁷⁾。

筆者は、崖線に沿って歩くなかで、ただ都市郊外の風景が広がっているのではなく、湧水や緑に富む豊かな自然が崖に現存しつつも、そこに住む人々の生活が崖の地形と一体になり、延々と続く、連続性のある風景をつくっているように感じた。



Fig.1 国分寺崖線の航空写真

*1) 空間的な関係の知覚や認識を方向づける心的な構造を空間図式とよぶ。2)

*2) 一人称視点で観察や記述をし、そのデータを基に知の本質を見出そうとする研究を一人称研究という。4)

*3) まち観帖を構成する「まち観の型ことば」はまち歩きの体験を通じて、観て/体感して感じたこと、想ったこと、行動するとよいことを写真と合わせて記述しており、まちの見方を示している。

3.2 経験の表現 -写真日記の作成-

経験したものを「写真日記」*4) という形式で表現する。写真日記で表現されたものを基礎資料とする。

2023年4月23日から計4回現地を訪れ、まち歩きをおこなった。コースは主に崖線に沿って行い、丹念にまちを探索した。探索の中でよいと感じた空間を撮影した写真と経験をもとに計70枚の写真日記を作成した。また、経験の中で空間図式が変化するきっかけとなった箇所の記述にはハイライトをいれる(Fig. 2)。

3.3 空間図式作成

写真日記から経験主体とまちの空間が結び付くような文章を抜粋する。George Lakoff が提唱したいくつかの運動感覚的イメージスキーマ⁸⁾という概念を単位とし、空間図式を作成⁹⁾する(Fig.2)。

本研究では、体験の変化を空間図式で表現することを試みる。その際、後の空間図式の方が、豊かな経験として表現することに留意する。

下に例を示す。この体験は、降りはじめた雨をきっかけに自分が木の下にいることを認識したため、体験が変化し、主体(私)の周りに、木の下の特徴的な空間の表現として点線の円で示した図式が増えている。

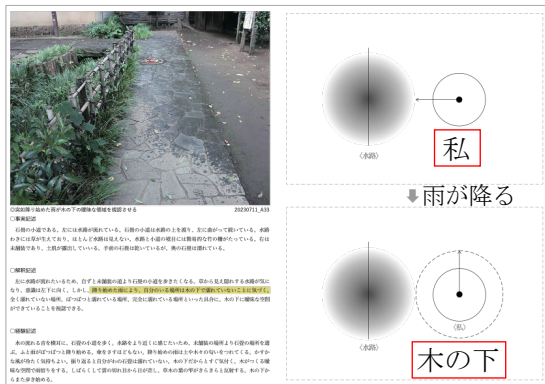


Fig. 2 写真日記と空間図式の例

3.4 経験の構造化

作成した空間図式や写真日記に表現した情報は、小さな気づきが集積したものである。これらをひとつの物語として構造化するために、KJ法*5)を用いる。情報の関連性(類似、対比など)をもとにボトム・アップでグループ化し、各グループ内の空間図式の特徴を分析する。(Fig.4)

4. 結果

これらの分析から基礎資料の図式表現による空間図式(A01~A70)及び、グループ化によってグループD(D01~D05)が得られる。

[D01]まちには視界に入らない空間もあるが、その空間にゆっくり近づいたり身体を頼りににじり寄っていくことで、存在を感じたり互いに影響を及ぼすことができる。

[D02]雨や風によって木々が揺れ、その度に木の下境界は曖昧になっている。その空間に自らの身体を入れると、外部環境を身体で感じる。

[D03]ゆっくりと風景を眺め、まちの連続性(例：崖線)に沿って身体を委ねると周辺環境を感じ、先の空間へと意識が向けられる。

[D04]崖線から湧き出る水があるからこそ、この地に人が住んできた時の流れを感じつつ、今も自然の恩恵を享受している様子を垣間見る。

[D05]下り坂や交差点など、どちらに進むか迷ったとき、一度立ち止まって視線を意識する。すると、まちのなかで今自分がどこにいるか把握でき、進んだ先の空間のイメージを意識する。

5. 二人称視点からの検証と仕掛け

最後に二人称視点からの検証として、広域な国分寺崖線の歩き方を示した指南書を作成する。(Fig. 3)この指南書が新たな知見を生む仕掛けとなることを期待している。



Fig. 3 指南書の例 (はげのことば01)

6. 考察

身体性に着目して図式表現し、グルーピングすることによって、自分の身体と空間が繋がっていることを実感できた。また、自らの経験を基に作成した指南書は、国分寺崖線の歩き方を語り伝えるものになった。

* 4) 写真日記とは、自己の経験において収集した情報や気づきを記録し、蓄積するデータシートの一形態である。事実記述、現象記述、経験記述からなる。経験している状況を視覚的に表現する写真と、事実記述を通じた撮影者の主観的な体験を意識的に関連づけることができる。

* 5) KJ法は川喜田二郎がデータをまとめるために考案した手法である。トップ・ダウンによる分類ではなく、個々のデータに記録されている情報の関連性(類似・対比・連係など)を考えつつ、ボトム・アップでグルーピングしていく。このときグループが単なる分類や整理にならないように留意する。11)



Fig. 4 経験の表現の構造化

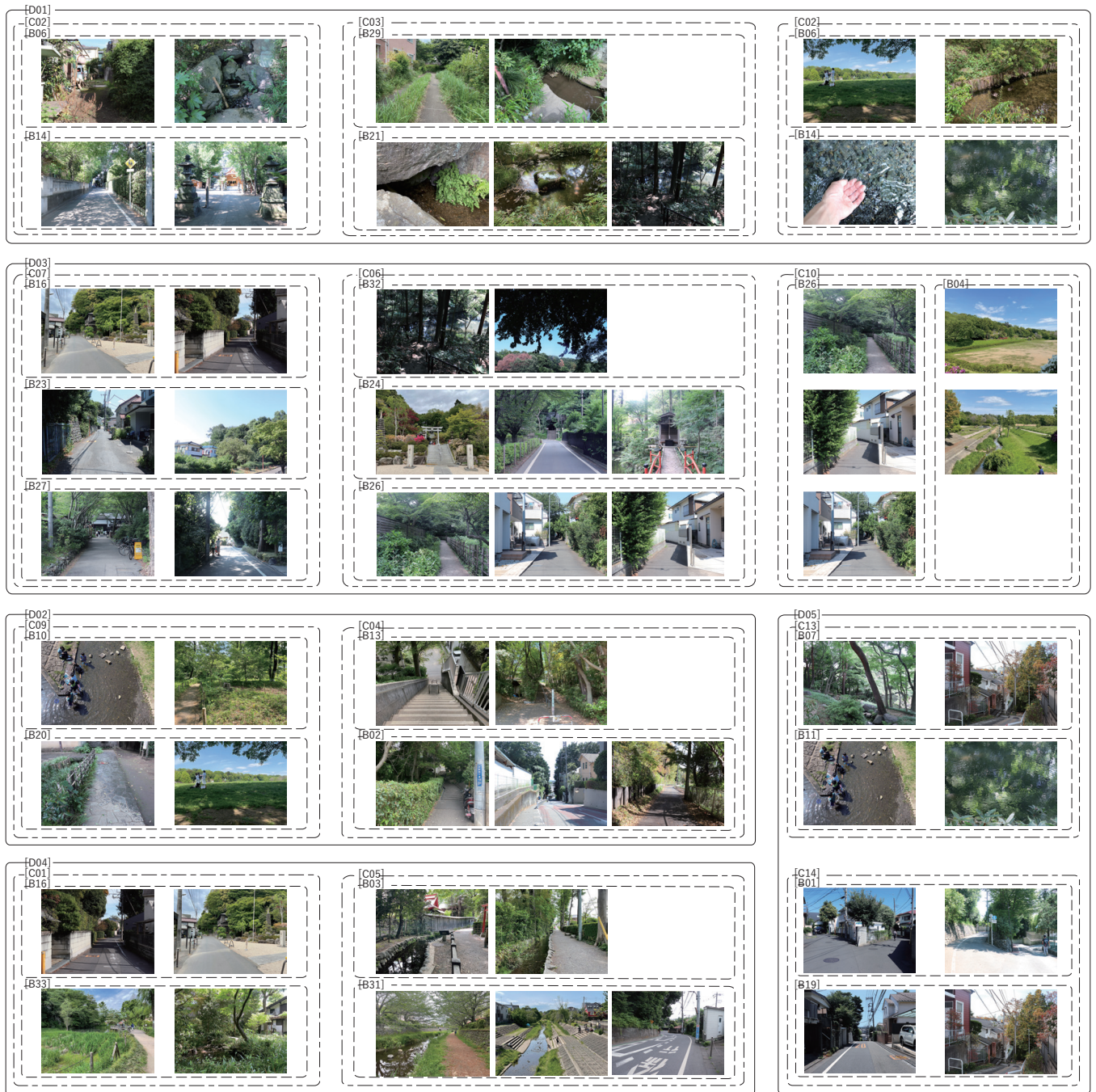


Fig. 5 経験の構造化を経た基礎資料とグループの包含関係

参考文献

- 1) Neisser, U(1976).Cognition and Reality-Principles and Implications of Cognitive Psychology. W. H. Freeman and Co. (吉村敬・村瀬旻 共訳)『認知の構図：人間は現実をどのようにとらえるか』, 東京サイエンス社 (1978)
- 2) 藤井晴行, 空間図式の原初的要素としての運動感覚的イメージ・スキーマ, 日本建築学会大会学術講演概要集(関東) (2015)
- 3) マイケル・ポランニー, 高橋勇夫訳, 暗黙知の次元, ちくま書房 (2003)
- 4) 諏訪正樹, 堀浩一, 一人称研究のすすめ - 知能研究の新しい潮流 -, 近代科学社 (2015)
- 5) 福田隼登, 藤井晴行, 身体性に注目した空間体験の図式表現方法に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第80巻, 第709号, 559-567, (2015)
- 6) 諏訪正樹, 加藤文俊, まち観帖 まちを観て語り伝えるためのメディア, 人工知能学会大会, 2P1-0S-9b-6
- 7) 法政大学大学院エコ地域デザイン研究所, 図録/豊かな水と緑, 暮らしを育んだ国分寺崖線 - 武蔵野の価値資源の再生を目指して -, 法政大学大学院エコ地域デザイン研究所流域圏再生プロジェクト (2008)
- 8) George Lakoff, 認知意味論, 紀伊國屋書店 (2016) pp. 314-369
- 9) 福田隼登, 藤井晴行, 空間体験に基づいた心地よいシークエンスの身体的な図式の表現方法に関する研究, 日本 建築学会計画系論文集 724, (2016)
- 10) 篠崎健一, 藤井晴行, 片岡菜苗子, 加藤絵里, 福田隼登, 空間図式の身体的原型の実地における空間体験に基づく研究 (写真日記を基礎資料とするKJ法の試み), 人工知能学会特集号No. 1, pp. 37-52, (2015)
- 11) 川喜田二郎, 発想法, 中央公論新 (1967)